

IBM

@server

iSeries

ディスク・プールの管理





@server

iSeries

ディスク・プールの管理

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

原 典： RZAL-B000-01
iSeries
Manager disk pools

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2002.8

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2002. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2002

目次

ディスク・プールの管理	1
V5R2 の新機能	2
このトピックを印刷	2
ディスク管理の計画	3
iSeries ナビゲーターでのディスク装置へのアクセス	4
通信のセットアップ	4
グラフィカル・ビューによる現行構成の評価	5
ディスク・スペース所要量の計算	6
ディスク・プールの構成と管理	8
ディスク構成の正しい手順を選択する	8
ディスク装置またはディスク・プールの追加	19
ディスク装置構成の管理	20
ディスク装置のデータの保護	22
装置パリティ保護に関する処理	22
ミラー保護に関する処理	25
ディスク装置のパフォーマンスの最適化	26
独立ディスク・プールの管理	28
関連情報	28

ディスク・プールの管理

ディスク装置およびディスク・プールの管理は、iSeries ナビゲーターを利用して簡単に行うことができます。iSeries ナビゲーターがインプリメントするグラフィカル・ビューを使用して、ディスク装置の正確な場所を確認したり、各ディスク装置の構成情報を入手することができます。iSeries ナビゲーターには、構成作業を単純化するための次のようないくつかのウィザードがあります。

ディスク・プール (これは補助記憶域プール (ASP) と呼ばれます) を使用すると、関連した情報をディスク装置のグループに統合できるので、回復、可用性、およびパフォーマンスの向上を図ることができます。ディスク・プールは、ディスク装置をどのように配置するかをソフトウェアで定義したものです。サーバーでのディスク装置の物理的配置に必ずしも一致している必要はありません。

ディスク・プールの 2 つの主要カテゴリーは、システム・ディスク・プールとユーザー・ディスク・プールです。ユーザー・ディスク・プールには、基本ディスク・プールと独立ディスク・プールの 2 つのタイプがあります。基本ディスク・プールは、常に、データの記憶およびアクセスに使用できます。使用不可にしたり、クラスター環境でノード間で切り替えたりすることはできません。独立ディスク・プールには、使用可能または使用不可にする時点をユーザーが決められる、クラスター環境で別のノードに切り替えられる、という柔軟性があります。

ディスク・プールとディスク装置を構成すると、iSeries ナビゲーターでディスク装置のパフォーマンスをカスタマイズし、管理することができます。使用可能なディスク管理機能の詳細については、以下のトピックを参照してください。

注: このトピックで使用されている**タワー**という用語は、**拡張装置**を指しています。拡張装置は、記憶域と処理容量を追加するためにシステム装置に接続できる機構です。

V5R2 の新機能

「ディスク・プールの管理」に加えられた変更および改善について説明します。

このトピックを印刷

「ディスク・プールの管理」およびその他のトピックの PDF 版を表示および印刷することができます。

ディスク管理の計画

開始する前に、iSeries ナビゲーターで「ディスク装置」フォルダーにアクセスできること、およびサービス・ツール・サーバーを介して iSeries サーバーにアクセスできることを確認してください。また、ディスク・プールで各種のアクションを実行するために必要なスペースを計算する際に役立つ、適切な手順チェックリストと表を選んでください。最後に、グラフィカル・ビューを活用してディスク装置を計画および構成する方法を習得します。

ディスク・プールの構成と管理

ディスク装置の追加ウィザードと新規ディスク・プール・ウィザードによって、いくつかのディスク構成手順が 1 つになりました。その使いやすさを実感してください。ニーズに合わせてディスク装置の移動、除去、および置き換えをする方法も習得します。また、ディスク・プールのデータを削除または消去する方法も習得します。

ディスク装置のデータの保護

iSeries ナビゲーターを使用して、装置パリティ保護およびミラー保護の機能によってデータを保護する方法を習得します。

ディスク装置のパフォーマンスの最適化

ディスク・プールのオーバーフローの防止、自動オーバーフロー回復の使用可能化、ディスク・プールのバランスを取る方法、および、ディスク圧縮によりさらに効率よくデータを管理する方法を習得します。

独立ディスク・プールの管理

切り替え可能な独立ディスク・プールまたは専用の独立ディスク・プールを作成する方法を習得します。タワーを切り替え可能にする方法およびディスク・プールを使用可能にする方法を確認してください。また、独立ディスク・プールの回復方法も習得します。

関連情報

iSeries Information Center に収められたトピックおよびマニュアル (PDF フォーマット) から、ディスク・プールの管理に関連のある情報を表示できます。

上記のトピックでは、iSeries ナビゲーターを使用したディスク管理の概要を説明します。さらに詳しい情報が必要な場合は、iSeries ナビゲーターからディスク装置に関するオンライン・ヘルプを参照してください。

V5R2 の新機能

ここでは、V5R2 でディスク・プールの管理について新たに追加された変更を示します。

新しいツールおよび機能


V5R2 では、ディスク構成に変更を加える前に鉛筆と紙を使って計算する必要性を省けるように、ディスク・スペース計算器が追加されました。また、パリティ・セットを最適化して、容量またはパフォーマンスの向上を計ったり、均衡のとれた混合構成を作成できます。詳しくは、以下のトピックを参照してください。

- ディスク・スペース計算器
- パリティ・セットの最適化

新機能や変更内容の見つけ方

技術的な変更がどこに加えられたか見つけやすいように、本書では以下のマークを使用しています。

- **>** イメージは、新規情報または変更情報が始まる位置を示します。
- **<** イメージは、新規情報または変更情報が終わる位置を示します。

このリリースに加えられたその他の新機能や変更内容を見つけるには、プログラム資料説明書  を参照してください。

このトピックを印刷


PDF バージョンを表示またはダウンロードするには、ディスク・プールの管理 (約 255 KB、25 ページ) を選択してください。

以下の関連トピックを表示またはダウンロードできます。

- 独立ディスク・プール (約 500 KB) には、以下のトピックが含まれています。
 - 独立ディスク・プールの計画、構成、および管理
 - シナリオ

- ディスク保護 (約 405 KB) には、以下のトピックが含まれています。
 - ディスク・プール
 - 装置パリティ保護
 - ミラー保護

その他の情報


「バックアップおよび回復の手引き」  (約 700 ページ) も表示または印刷できます。

PDF ファイルの保管

表示用または印刷用の PDF ファイルを Netscape Navigator からワークステーションに保存するには、次のようにします。

1. ブラウザーで PDF を開く (上記のリンクをクリックする)。
2. ブラウザーのメニューから「ファイル」をクリックする。
3. 「名前を付けて保存」をクリックする (IE の場合はフロッピーディスクのアイコン (名前を付けて保存) をクリックする)。
4. PDF を保存したいディレクトリーに進む。
5. 「保存」をクリックする。

Adobe Acrobat Reader のダウンロード

これらの PDF を表示または印刷するために Adobe Acrobat Reader が必要な場合は、Adobe の Web サイト (www.adobe.com/products/acrobat/readstep.html)  からダウンロードしてください。

ディスク管理の計画

サーバーのディスク構成の変更は時間のかかる処理なので、できるだけ効率的に行うために念入りに計画してください。iSeries ナビゲーターを使用してディスク管理を開始する前に、以下の指示に従って準備を行ってください。

1. iSeries ナビゲーターでのディスク装置へのアクセス

「ディスク装置」フォルダーにアクセスするには、iSeries ナビゲーターの「構成およびサービス」コンポーネントをインストールする必要があります。

2. 通信のセットアップ

サービス・ツール・サーバーを構成し、サービス IP アドレスを設定して、ご使用の PC からサーバーにアクセスし、ディスク管理機能を実行できるようにします。

3. 現行構成の評価

iSeries ナビゲーターのグラフィカル・ビューを使用して現行構成を調べ、ディスク・ストラテジーの計画を立てます。

4. スペース所要量の計算

ディスク構成に変更を加える前に、ディスク・プールのスペース所要量を確認してください。

iSeries ナビゲーターでのディスク装置へのアクセス

iSeries ナビゲーターでディスク管理タスクを行うには、事前に「構成およびサービス」コンポーネントをインストールし、「ディスク装置」フォルダーを使用可能にしておく必要があります。「ディスク装置」フォルダーにアクセスするには、次のステップに従ってください。

「構成およびサービス」コンポーネントのインストール

1. iSeries ナビゲーターの「ファイル」メニューで、「インストール・オプション → 選択セットアップ」を選択する。
2. その後に表示されるダイアログの指示に従って、「構成およびサービス」コンポーネントをインストールする。

「ディスク装置」フォルダーを使用可能にする

1. iSeries ナビゲーターで、サーバー接続を右マウス・ボタン・クリックし、「アプリケーション管理」を選択する。
2. その後に表示されるウィンドウで、「OK」をクリックする。
3. 「ホスト・アプリケーション」タブをクリックする。
4. 「OS/400 → サービス」とクリックして展開する。
5. 「ディスク装置」を選択し、「デフォルト・アクセス」または「すべてのオブジェクト・アクセス (All Object Access)」を選択する。
6. 「OK」をクリックする。
7. iSeries ナビゲーターを再始動する。

すべてのディスク管理機能を実行するために「ディスク装置」フォルダーにアクセスする

1. iSeries ナビゲーターで、「使用する接続」(または自分のアクティブ環境) をクリックして展開する。
2. iSeries サーバーを展開する。
3. 「構成およびサービス」を展開する。
4. 「ハードウェア」を展開する。
5. 「ディスク装置」を展開する。

通信のセットアップ

iSeries ナビゲーターでは、サービス・ツール・サーバーを介して PC から iSeries サーバーにアクセスし、2 つの異なるレベルでディスク管理機能を実行することができます。iSeries サーバーにアクセスできるのは、サーバーが完全に再始動した後か、サーバーが専用保守ツール (DST) モードの時です。DST では、ディスク管理用の追加機能をいくつか使用できますが、サーバーが完全に再始動した後はこれらの機能は利用できなくなります。ディスク管理機能を使用する前に、サービス・ツール・サーバーを構成する必要があります。DST 機能にアクセスするには、サービス IP アドレスも設定しなければなりません。

サービス・ツール・サーバーの構成

iSeries ナビゲーターでディスク管理機能を利用するためには、最初に DST アクセスとユーザー ID を使用してサービス・ツール・サーバー (STS) を構成する必要があります。構成を始める前に、サービス・ツールの概念について学んでください。構成手順については、サービス・ツール・サーバーの構成およびサービス・ツール・ユーザー ID の構成を参照してください。

サービス IP アドレスの設定

iSeries ナビゲーターからサーバーの DST 機能にアクセスするには、サーバーのサービス IP アドレスを指定する必要があります。サービス IP アドレスは、DST モードになっているときのシステムの TCP/IP アドレスを指定します。このアドレスの形式は、xxx.xxx.xxx.xxx です。xxx は、0 ~ 255 の整数です。アドレスは、上記のアドレスに解決されるドメイン・ネーム・システム (DNS) でも構いません。これについては、ネットワーク管理者にお尋ねください。以下の手順に進む前に、サービス・ツール・サーバーを構成済みであることを確認してください。

システムのサービス IP アドレスを設定するには、次のステップに従ってください。

1. iSeries ナビゲーターで、「**ユーザー接続**」(またはアクティブ環境)を展開する。
2. サービス IP アドレスを指定するサーバーを右マウス・ボタン・クリックし、「**プロパティ**」を選択する。
3. 「**サービス**」タブを選択する。
4. IS サーバーが完全に再始動される場合は、「**ルックアップ (Lookup)**」をクリックする。これで、システムが自動的に正しいサービス IP アドレスを探し出します。サーバーが DST モードの場合は、サービス IP アドレスを指定してください。変更を有効にするために、「**OK**」をクリックします。

サービス IP アドレスが設定されると、システムが DST モードの場合には iSeries ナビゲーターを使用してシステムに接続できます。通常の方法でシステムに接続する場合と同様に、iSeries ナビゲーターを始動します。iSeries ナビゲーターは、DST モードで実行できる機能のサブセットで開始されます。

注： サービス IP アドレスを構成できない場合でも、DST ディスク管理機能にアクセスすることができます。「環境タスク (Environment tasks)」ウィンドウで、「iSeries ナビゲーター・サービス・ツール・ウィンドウを開く (Open iSeries Navigator service tools window)」をクリックし、その後に表示される指示に従ってください。

グラフィカル・ビューによる現行構成の評価

サーバーのディスク構成を変更する前に、ディスク・プール、入出力アダプターおよびタワーとの関係の中で、既存のディスク装置がどのような位置にあるかを正確に把握しておくことが重要です。iSeries ナビゲーターのグラフィカル・ビューでは、サーバーの構成を表すグラフィカル表現を利用できるので、位置関係の情報をすべてまとめ上げるという労力のかかる作業が省かれます。グラフィカル・ビューを使用して、iSeries ナビゲーターの「ディスク装置」リスト・ビューから使用可能なすべての機能を実行でき、その上、ビジュアル表現で見られるという利点まで加わります。特定のディスク装置、ディスク・プール、パリティ・セット、またはタワーなど、表の中のオブジェクトをどれでも右マウス・ボタン・クリックすれば、iSeries ナビゲーターのメインウィンドウで使用できるのと同じオプションが表示されます。

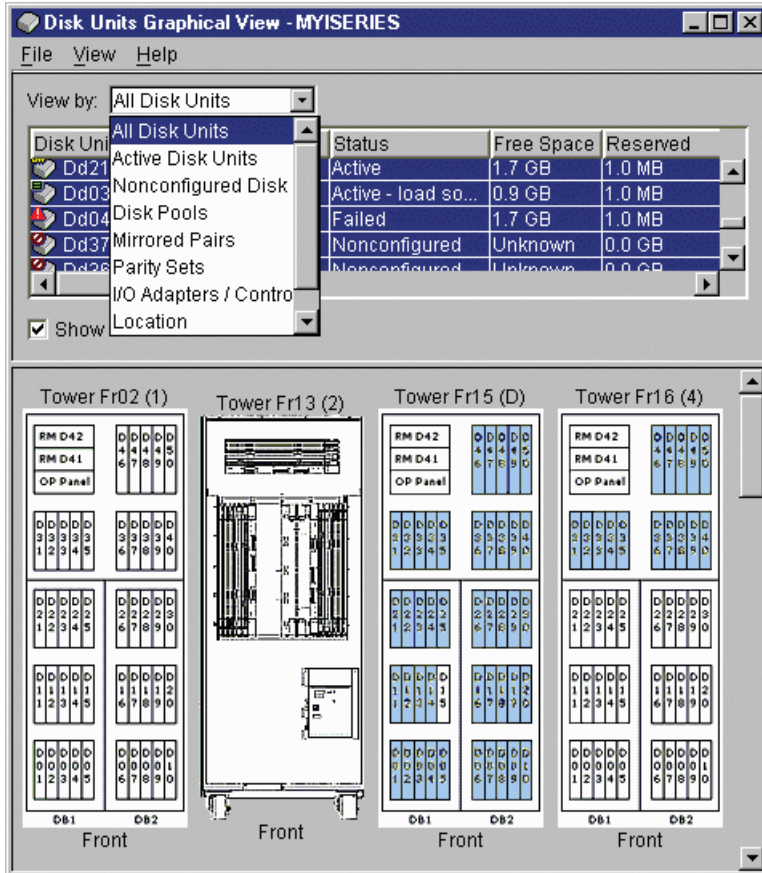
「グラフィカル・ビュー」ウィンドウでは、ハードウェアの表示方法を選択できます。たとえば、ディスク・プール別の表示を選択し、リストから特定のディスク・プールを選択すれば、その選択されたディスク・プールを構成するディスク装置を含むタワーのみを表示することができます。選択されたディスク・プールにディスク装置が含まれているかどうかに関係なくすべてのタワーを表示するには、「**すべてのタワーを表示**」を選択します。

グラフィカル・ビューにブルーで強調表示されているディスク装置は、右マウス・ボタン・クリックすると、そのディスク装置に対して実行するアクションを選択できます。たとえば、ディスク装置の圧縮を開始または停止する、ディスク装置をパリティ・セットに組み込む (またはパリティ・セットから除外する)、ディスク装置の名前を変更する、などのアクションを選択できます。ディスク装置がミラー保護されている場合 (つまり、ミラー保護された対の片方である場合) は、そのディスク装置に対するミラーリングの一時停止や再開ができます。空のディスク装置スロットを右マウス・ボタン・クリックすると、ディスク装置のインストール・ウィザードを開始できます。

グラフィカル・ビューをアクティブにするには、次のステップに従ってください。

1. iSeries ナビゲーターで、「ディスク装置」を展開する。
2. 「すべてのディスク装置」を右マウス・ボタン・クリックし、「グラフィカル・ビュー」を選択する。

図 1: iSeries ナビゲーターの中のグラフィカル・ビューの例。「表示別」メニューには、ディスク装置表示のオプションがいくつか表示されます。



グラフィカル・ビューの詳細については、ディスク装置に関するオンライン・ヘルプを参照してください。

ディスク・スペース所要量の計算

» システムのディスク構成またはディスク保護を変更する前に、その変更に必要なスペース所要量を計算する必要があります。これは、システムにその変更のための十分なディスク記憶域があることを確認するために役立ちます。

ディスク・スペース計算器を使用して、ディスク・プールに変更を行うのに十分な記憶域スペースがあるかどうかを判別できます。計算器を使用するには、ディスク・プールの現在のフリー・スペースと使用スペースの量がどれだけかを知る必要があります。この情報を得るには、次のようにしてディスク・プール構成を表示します。

1. iSeries ナビゲーターで、「ディスク装置」を展開する。
2. 「ディスク・プール」をクリックして展開する。
3. 表示したいソース・ディスク・プールを右マウス・ボタン・クリックし、「プロパティ」を選択する。
4. 「容量」タブを選択する。

「容量」タブに、ディスク・プールの使用スペース、フリー・スペース、合計容量、しきい値、および使用されているディスク・スペースの割合 (%) が表示されます。

「容量」タブに表示される使用スペース、フリー・スペース、およびしきい値を書き留めてください。使用スペースとフリー・スペースの値を、後で計算器に入力しなければなりません。必要なら、しきい値も計算器に入力できます。その場合は、ディスク使用量がしきい値を超えると、計算器から警告が出ます。

計算器の使用例については、ディスク装置を移動する場合のディスク・スペースの計算方法に関するシナリオを参照してください。

この計算器は JavaScript を使用して機能します。JavaScript をサポートするブラウザーを使用していること、および JavaScript が使用可能にされていることを確認してください。 <<

ディスク・スペース計算器

警告：このファインダーでは JavaScript を使用しますが、ご使用のブラウザーでは JavaScript は利用不能または使用不可になっています。

既存の使用スペースおよびフリー・スペースの値を入力し、必要ならディスク・プールのしきい値も入力して、「次へ」をクリックします。入力する値が分からない場合は、iSeries ナビゲーターを使用して、ディスク・プールのフリー・スペース、使用スペース、およびしきい値のルックアップを行ってください。

シナリオ：ディスク装置を移動する場合のディスク・スペースの計算

» ディスク装置をディスク・プールから除去しようと計画しているとします。ディスク装置がソース・ディスク・プールから除去される前に、そのディスク装置にあるデータが同じソース・ディスク・プール内の別のディスク装置にコピーされます。このデータを入れるための十分なフリー・スペースがソース・ディスク・プールにあることを確認する必要があります。

このページに示すステップに従ってディスク・プール構成を表示した後で、使用済みスペースが 180 GB、フリー・スペースが 40 GB あり、しきい値が 90% に設定されていることが分かったとします。システムの使用スペースおよびフリー・スペースをグラフィカルに表示するには、これらの値をディスク・スペース計算器に入力し、「計算」をクリックします。そうすると、合計ディスク・スペース、使用済み率、およびしきい値が表示されます。

ディスク・プールから除去しようとしているディスク装置の容量が 18 GB だったとします。ディスク・スペース計算器で、「ディスク・スペースをディスク・プールから除去する (Remove disk space from disk pool)」を選択し、量として 18 を入力します。「計算 (Calculate)」をもう一度クリックすると、使用済みスペースとフリー・スペースを示す新しいグラフィックが表示されます。今度は、使用済みのディスク・スペースは 89.1% になります。この数値は、ぎりぎりでしきい値以下に収まっていますが、あまり余裕はないことが分かります。 <<

ディスク・プールの構成と管理

ディスク装置の追加ウィザードおよび新規ディスク・プール・ウィザードを利用することで、ディスク装置の初期構成を簡単に行うことができます。記憶域の必要量が変わった場合は、iSeries ナビゲーターを使用してディスク装置を移動、除去、および置き換えることができます。また、ディスク・プールという方法で分類された情報が不要になったら、インターフェースを使用してディスク・プールを消去または削除できます。ディスク装置管理の一環として、ディスク装置を名前変更、フォーマット、またはスキャンすることもできます。

注: サーバーのディスク構成を変更する前に、『ディスク管理の計画』を読んでおいてください。

ディスク装置およびディスク・プールの追加、またはディスク装置構成の管理をするには、以下のトピックを参照してください。

- ディスク構成の正しい手順の選択
- ディスク装置またはディスク・プールの追加
- ディスク装置構成の管理

ディスク構成の正しい手順を選択する

このトピックには、構成手順を実行するためのチェックリストがいくつか示されています。次の表を利用して、どのチェックリストを使用するのがお客様の状況に適しているかを判断してください。

タスクの説明	実行する手順	DST の必要性
システムを初めて構成する。	チェックリスト 1: 新規システムでディスクを構成する	必要
装置パリティ保護なしの 1 つ以上のディスク装置を追加する。それらのディスクの装置パリティ保護を開始する予定がない場合、このチェックリストは、装置パリティ保護機能のあるディスク装置に適用されます。	チェックリスト 2: 装置パリティ保護なしのディスク装置を追加する	不要
組み込み (標準装備) 装置パリティ機能がある既存の入出力アダプター (IOA) に 1 つ以上のディスクを追加する。装置パリティ保護を使用して新規ディスクのうちいくつか、またはすべてを保護する予定の場合、このチェックリストを使用します。	チェックリスト 3: ディスク装置を IOA に追加する	不要
組み込み (標準装備) 装置パリティ機能がある新規 IOA を追加する。装置パリティ保護を使用して新規ディスクのうちいくつか、またはすべてを保護する予定の場合、このチェックリストを使用します。	チェックリスト 4: 新規 IOA を追加する	必要
ミラー保護機能のない既存のディスク・プール間でディスク装置を移動する。	チェックリスト 5: ミラー保護されていないディスク・プール間でディスク装置を移動する	必要
ミラー保護機能がある既存のディスク・プール間でディスク装置を移動する。	チェックリスト 6: ミラー保護されたディスク・プール間でディスク装置を移動する	必要

タスクの説明	実行する手順	DST の必要性
基本ディスク・プールを削除する。	チェックリスト 7: ディスク・プールを削除する	必要
装置パリティ保護なしの 1 つ以上のディスク装置を除去する。	チェックリスト 8: 装置パリティ保護なしのディスク装置を除去する	必要 ¹
IOA から 1 つ以上のディスク装置を除去する。 IOA に接続されているディスク装置のうちいくつか、またはすべてに対して装置パリティ保護が開始されており、それらのディスク装置がミラー保護なしのディスク・プール内にある場合に、このチェックリストを使用します。	チェックリスト 9: ミラー保護なしのディスク・プールから装置パリティ保護付きのディスク装置を除去する	必要
IOA から 1 つ以上のディスク装置を除去する。 IOA に接続されているディスク装置のうちいくつか、またはすべてに対して装置パリティ保護が開始されており、それらのディスク装置がミラー保護付きのディスク・プール内にある場合に、このチェックリストを使用します。	チェックリスト 10: ミラー保護されたディスク・プールから装置パリティ保護付きのディスク装置を除去する	必要
¹ システムを DST モードに切り替えることなく、割り当てられていないディスク装置をオフラインの独立ディスク・プールから除去できます。		

チェックリスト 1: 新規システムでディスクを構成する


このチェックリストは、新規の iSeries サーバーでディスクを構成する場合のタスク順序を示しています。すべてのタスクを実行する必要があるかどうかは、システムで使用するディスク保護によります。使用可能なディスク保護の詳細については、『データに対するディスク保護の設定』を参照してください。

重要: このチェックリスト内のタスクを実行するときに、システムでは大量のデータが移動します。エラー状態から回復しなければならない場合に備えて、必ず完全にシステムを保管しておいてください。

開始する前に、このチェックリストのコピーを印刷してください。 実行した構成タスクにチェック印を付けてください。このチェックリストは、大切な処理記録になります。問題が発生した場合の診断に役立ちます。

チェックリスト内のほとんどのタスクには、他のトピックへの参照が組み込まれています。特定のタスクの実行方法についてさらに情報が必要な場合は、以下のトピックを参照してください。

タスク	処理内容	追加情報の入手先
1. ____	ディスク構成を表示する。 現在、ロード・ソース装置以外のすべてのディスク装置は、未構成状態として表示されます。	グラフィカル・ビューの使用
2. ____	ディスク装置の追加ウィザードを使用して、未構成ディスクを正しいディスク・プールに追加する。 ディスクが装置パリティ保護可能であるかまたは圧縮可能である場合は、装置パリティ保護開始オプションまたは圧縮開始オプションを利用できません。	ディスク装置の追加ウィザードおよび新規ディスク・プール・ウィザードの使用

タスク	処理内容	追加情報の入手先
3.____	各ディスク・プールのデフォルト記憶域しきい値は、90%。どのディスク・プールについても、必要に応じてこの値を別の記憶域しきい値に変更できます。	ディスク・プールのしきい値の設定
4.____	保護されたディスク・プールを作成することを選択し、ディスク装置の対をミラー保護されたディスク・プールに組み込んだ場合は、この段階で専用保守ツール (DST) レベルで再始動し、それらのディスク・プールに対してミラー保護を開始することができる。	ミラーリングに関する処理
5.____	システム・ディスク・プールまたは基本ディスク・プールのミラー保護を開始したら、システムが完全に再始動するまで待つ。	
6.____	ディスク構成が正確であることを検証する。	グラフィカル・ビューの使用
7.____	回復時に備えて、ディスク構成を印刷する。	「バックアップおよび回復の手引き」  の『ディスク構成の表示方法 (How to display your disk configuration)』

チェックリスト 2: 装置パリティ保護なしのディスク装置を追加する

このチェックリストは、新規の iSeries サーバーでディスクを構成する場合のタスク順序を示しています。すべてのタスクを実行する必要があるかどうかは、システムで使用するディスク保護によります。ディスク保護に、使用可能なディスク保護に関する詳細が示されています。

ミラー保護付きのディスク・プールへの追加


ミラー保護を停止したり開始することなく、ミラー保護のあるディスク・プールにディスク装置を追加できます。同一の容量をもつディスク装置を対で追加する必要があります。追加された装置は、常に互いに対の状態です。後で、システムが数時間使用不可になったとき、ミラー保護の停止および開始を行うこともできます。再度ミラー保護を開始するときに、システムはシステム上のすべてのディスク装置の対を評価します。これにより、コントローラー、入出力プロセッサ (IOP)、またはバスに影響を与える障害に対する、高水準の可用性が実現します。

重要: このチェックリスト内のタスクを実行するときに、システムでは大量のデータが移動します。エラー状態から回復しなければならない場合に備えて、必ず完全にシステムを保管しておいてください。

開始する前に、このチェックリストのコピーを印刷してください。実行した構成タスクにチェック印を付けてください。このチェックリストは、大切な処理記録になります。問題が発生した場合の診断に役立ちます。

チェックリスト内のほとんどのタスクには、他のトピックへの参照が組み込まれています。特定のタスクの実行方法についてさらに情報が必要な場合は、以下のトピックを参照してください。

タスク	処理内容	追加情報の入手先
1.____	グラフィカル・ビューを使用して、ディスク装置をインストールする空のスロットを探す。	グラフィカル・ビューの使用

タスク	処理内容	追加情報の入手先
2.____	空のスロットを右マウス・ボタン・クリックする。ディスク装置のインストール・ウィザードを始動し、指示に従って処理を進める。	
3.____	ディスク装置の追加ウィザードを使用して、未構成ディスクを既存または新規のディスク・プールに追加する。ディスクが圧縮可能またはミラー保護されたディスク・プールに追加可能であれば、圧縮を開始するオプションか、または同一の容量をもつディスク装置をミラー保護されたディスク・プールに追加するオプションを利用できます。	ディスク装置またはディスク・プールの追加
4.____	各ディスク・プールのデフォルト記憶域しきい値は、90%。必要に応じて、異なる記憶域しきい値に変更します。	ディスク・プールのしきい値の設定
5.____	保護されたディスク・プールを作成することを選択し、ディスク装置の対をミラー保護されたディスク・プールに組み込んだ場合は、この段階で専用保守ツール (DST) レベルで再始動し、それらのディスク・プールに対してミラー保護を開始することができる。	ミラーリングに関する処理
6.____	システム・ディスク・プールまたは基本ディスク・プールのミラー保護を開始したら、システムが完全に再始動するまで待つ。	
7.____	ディスク構成が正確であることを検証する。	グラフィカル・ビューの使用
8.____	回復時に備えて、ディスク構成を印刷する。	「バックアップおよび回復の手引き」  の『ディスク構成の表示方法 (How to display your disk configuration)』

チェックリスト 3: ディスク装置を既存の入出力アダプターに追加する


このチェックリストは、1 つ以上のディスクを、組み込み (標準装備の) 装置パリティ保護機能がある既存の入出力アダプターに追加する場合のタスク順序を示しています。装置パリティ保護を使用して新規ディスク装置のうちいくつか、またはすべてを保護する計画の場合、このチェックリストを使用します。新規ディスク装置のいずれをも保護する計画ではない場合は、チェックリスト 2 を使用します。

ディスク装置をディスク・プールに追加する前に装置パリティ保護を開始するので、システムでのミラー保護機能の有無に関係なく、この手順を利用できます。

重要: このチェックリスト内のタスクを実行するときに、システムでは大量のデータが移動します。エラー状態から回復しなければならない場合に備えて、必ず完全にシステムを保管しておいてください。

開始する前に、このチェックリストのコピーを作成してください。ユーザーまたはサービス技術員が構成タスクを実行したら、該当するタスクにチェック印を付けます。このチェックリストは、大切な処理記録になります。問題が発生した場合の診断に役立ちます。

チェックリスト内のほとんどのタスクには、他のトピックへのリンクが組み込まれています。特定のタスクの実行方法についてさらに情報が必要な場合は、以下のトピックを参照してください。

タスク	処理内容	追加情報の入手先
1.____	グラフィカル・ビューからアクセスできるディスク装置のインストール・ウィザードを使用して、ディスク装置を物理的に接続する。	グラフィカル・ビューの使用
2.____	ディスク装置の追加ウィザードを使用して、未構成ディスクを正しいディスク・プールに追加する。このウィザードでは、装置パリティ保護で保護するディスク装置を組み込むことができます。	ディスク装置の追加ウィザードおよび新規ディスク・プール・ウィザードの使用
3.____	各ディスク・プールのデフォルト記憶域しきい値は、90%。ディスク・プールの記憶域しきい値に異なる値を設定したい場合は、変更できます。	ディスク・プールのしきい値の設定
4.____	ディスク構成が正確であることを検証する。	グラフィカル・ビューの使用
5.____	回復時に備えて、ディスク構成を印刷する。	「バックアップおよび回復の手引き」  の『ディスク構成の表示方法 (How to display your disk configuration)』

チェックリスト 4: 新規入出力アダプターを追加する

このチェックリストは、新規の入出力アダプター (IOA) およびディスク装置をシステムに追加する場合のタスク順序を示しています。装置パリティ保護を使用して新規ディスクのうちのいくつか、またはすべてを保護する計画の場合、このチェックリストを使用します。ディスク装置をディスク・プールに追加する前に装置パリティ保護を開始するので、システムでのミラー保護機能の有無に関係なく、この手順を利用できます。ミラー保護機能が装備されており、装置パリティ保護機能がないディスクを追加する場合、同一の容量をもつディスクを対にして追加しなければなりません。


注: 新規ディスクに対して装置パリティ保護を開始しない予定の場合は、チェックリスト 2 の手順を使用して、新規ディスクを追加してください。

重要: このチェックリスト内のタスクを実行するときに、システムでは大量のデータが移動します。エラー状態から回復しなければならない場合に備えて、必ず完全にシステムを保管しておいてください。

開始する前に、このチェックリストのコピーを作成してください。ユーザーまたはサービス技術員が構成タスクを実行したら、該当するタスクにチェック印を付けます。このチェックリストは、大切な処理記録になります。問題が発生した場合の診断に役立ちます。

チェックリスト内のほとんどのタスクには、他のトピックへのリンクが組み込まれています。特定のタスクの実行方法についてさらに情報が必要な場合は、以下のトピックを参照してください。

タスク	処理内容	追加情報の入手先
1.____	サーバーに新規の入出力アダプターをインストールする。これは通常、サービス技術員が行います。	グラフィカル・ビューの使用
2.____	グラフィカル・ビューからアクセスできるディスク装置のインストール・ウィザードを使用して、ディスク装置を物理的に新規 IOA に接続する。	グラフィカル・ビューの使用
3.____	ディスク装置の追加ウィザードを使用して、未構成ディスクを正しいディスク・プールに追加する。装置パリティ保護開始オプションを選択します。	ディスク装置の追加ウィザードおよび新規ディスク・プール・ウィザードの使用

タスク	処理内容	追加情報の入手先
4.____	各ディスク・プールのデフォルト記憶域しきい値は、90%。ディスク・プールの記憶域しきい値に異なる値を設定したい場合は、変更します。	ディスク・プールしきい値の設定
5.____	装置パリティ保護を有効化するために、専用保守ツール (DST) レベルで再始動する。	装置パリティ保護に関する処理
6.____	システムが完全に再始動するまで待つ。	
7.____	ディスク構成が正確であることを検証する。	グラフィカル・ビューの使用
8.____	回復時に備えて、ディスク構成を印刷する。	「バックアップおよび回復の手引き」  の『ディスク構成の表示方法 (How to display your disk configuration)』


チェックリスト 5: ミラー保護されていないディスク・プール間でディスク装置を移動する


このチェックリストは、1 つ以上のディスク装置を、ある基本ディスク・プールから別の基本ディスク・プールに移動する場合のタスク順序を示しています。ディスク・プールに対してミラー保護がアクティブになっていない場合は、これらのタスクを使用します。このチェックリスト内のタスクを実行するには、サーバーを DST モードで再始動する必要があります。

重要: このチェックリスト内のタスクを実行するときに、システムでは大量のデータが移動します。エラー状態から回復しなければならない場合に備えて、必ず完全にシステムを保管しておいてください。

開始する前に、このチェックリストのコピーを作成してください。構成タスクを実行したら、該当するタスクにチェック印を付けます。このチェックリストは、大切な処理記録になります。問題が発生した場合の診断に役立ちます。

チェックリスト内のほとんどのタスクには、他のトピックへのリンクが組み込まれています。特定のタスクの実行方法についてさらに情報が必要な場合は、以下のトピックを参照してください。

タスク	処理内容	追加情報の入手先
1.____	現在のディスク構成を表示する。	グラフィカル・ビューの使用
2.____	ディスク装置のソース・ディスク・プールおよびターゲット・ディスク・プールの所要量を計算する。	ディスク・プール・スペース所要量の計算
3.____	「保管」メニューのオプション 21 を使用してシステム全体を保管する。	GO SAVE コマンドでサーバーを保管する
4.____	サーバーを再始動し、専用保守ツール (DST) を使用するためのオプションを選択する。	「バックアップおよび回復の手引き」  の『専用保守ツール (DST) の始動方法 (How to start dedicated service tools (DST))』。iSeries ナビゲーターのタスクパッドから、「iSeries ナビゲーター・サービス・ツール・ウィンドウを開く (Open iSeries Navigator service tools window)」を選択します。
5.____	グラフィカル・ビュー・ウィンドウで、移動したいディスク装置を右マウス・ボタン・クリックし、「移動」を選択します。	ディスク装置構成の保守
6.____	ディスク構成が正確であることを検証する。	グラフィカル・ビューの使用

タスク	処理内容	追加情報の入手先
7.____	回復時に備えて、ディスク構成を印刷する。	「バックアップおよび回復の手引き」  の『ディスク構成の表示方法 (How to display your disk configuration)』
8.____	サーバーを再始動する。	


チェックリスト 6: ミラー保護されたディスク・プール間でディスク装置を移動する


このチェックリストは、1 つ以上のディスク装置を、ある基本ディスク・プールから別の基本ディスク・プールに移動する場合のタスク順序を示しています。1 つ以上のディスク・プールがミラー保護されている場合に、これらのタスクを使用します。ミラー保護がアクティブになっているときは、ディスク装置の移動はできません。代わりに、ソース・ディスク・プールからミラー保護された対を除去して、それらの対をターゲット・ディスク・プールに追加します。このチェックリスト内のタスクを実行するには、サーバーを専用保守ツール (DST) モードで再始動する必要があります。

重要: このチェックリスト内のタスクを実行するときに、システムでは大量のデータが移動します。エラー状態から回復しなければならない場合に備えて、必ず完全にシステムを保管しておいてください。

開始する前に、このチェックリストのコピーを作成してください。構成タスクを実行したら、該当するタスクにチェック印を付けます。このチェックリストは、大切な処理記録になります。問題が発生した場合の診断に役立ちます。

チェックリスト内のほとんどのタスクには、他のトピックへのリンクが組み込まれています。特定のタスクの実行方法についてさらに情報が必要な場合は、以下のトピックを参照してください。

タスク	処理内容	追加情報の入手先
1.____	現在のディスク構成を表示する。	グラフィカル・ビューの使用
2.____	ディスク装置のソース・ディスク・プールおよびターゲット・ディスク・プールの所要量を計算する。	ディスク・プール・スペース所要量の計算
3.____	「保管」メニューのオプション 21 を使用してシステム全体を保管する。	GO SAVE コマンドでサーバーを保管する
4.____	サーバーを再始動し、専用保守ツール (DST) を使用するためのオプションを選択する。	「バックアップおよび回復の手引き」  の『専用保守ツール (DST) の始動方法 (How to start dedicated service tools (DST))』。iSeries ナビゲーターのタスクパッドから、「 iSeries ナビゲーター・サービス・ツール・ウィンドウを開く (Open iSeries Navigator service tools window) 」を選択します。
5.____	グラフィカル・ビューでミラー保護された対を使用してフィルターに掛け、次に Ctrl キーを押しながら、ミラー保護された対の各ディスク装置を選択する。選択したディスク装置のどれか 1 つを右マウス・ボタン・クリックし、「 除去 」を選択します。	ディスク装置構成の管理
6.____	未構成ディスク装置を正しいディスク・プールに追加する。ディスク装置を保護されたディスク・プールに追加する予定で、新規ディスク装置に装置パリティ保護機能がない場合、同一の容量をもつディスク装置の対を追加する必要があります。	ディスク装置の追加

タスク	処理内容	追加情報の入手先
7.____	ディスク装置を追加した時に新規ディスク・プールを作成した場合、システムはそのディスク・プールの記憶域しきい値を 90 % に設定する。ディスク・プールの記憶域しきい値に異なる値を設定したい場合は、変更します。	ディスク・プールのしきい値の設定
8.____	新規ディスク・プールを作成し、それらのディスク・プールをミラー保護したい場合は、この段階でミラー保護を開始する。	ミラーリングに関する処理
9.____	ディスク装置構成が正確であることを検証する。	グラフィカル・ビューの使用
10.____	回復時に備えて、ディスク構成を印刷する。	「バックアップおよび回復の手引き」  の『ディスク構成の表示方法 (How to display your disk configuration)』



チェックリスト 7: ディスク・プールを削除する


このチェックリストは、基本ディスク・プールまたは独立ディスク・プールを削除する場合のタスク順序を示しています。使用不可の独立ディスク・プールを削除または消去したい場合は、システムが完全に再始動した後で行うことができます。その他のすべてのディスク・プールについては、それらを消去または削除する前にシステムを DST モードで再始動する必要があります。

重要:エラー状態から回復しなければならない場合に備えて、必ず完全にシステムを保管しておいてください。また、ディスク・プールを削除すると、そのディスク・プールに残っているすべてのデータは失われますので、注意してください。

開始する前に、このチェックリストのコピーを作成してください。構成タスクを実行したら、該当するタスクにチェック印を付けます。このチェックリストは、大切な処理記録になります。問題が発生した場合の診断に役立ちます。

チェックリスト内のほとんどのタスクには、他のトピックへのリンクが組み込まれています。特定のタスクの実行方法についてさらに情報が必要な場合は、以下のトピックを参照してください。

タスク	処理内容	追加情報の入手先
1.____	現在のディスク構成を表示する。	グラフィカル・ビューの使用
2.____	残りのディスク・プールのスペース所要量を計算する。	ディスク・プール・スペース所要量の計算
3.____	「保管」メニューのオプション 21 を使用してシステム全体を保管する。	GO SAVE コマンドでサーバーを保管する
4.____	オブジェクトを削除するか、または別のディスク・プールに移動する予定のディスク・プールから、オブジェクトを除去する。	「バックアップおよび回復の手引き」 
5.____	サーバーを再始動し、専用保守ツール (DST) を使用するためのオプションを選択する。	「バックアップおよび回復の手引き」  の『専用保守ツール (DST) の始動方法 (How to start dedicated service tools (DST))』。iSeries ナビゲーターのタスクパッドから、「 iSeries ナビゲーター・サービス・ツール・ウィンドウを開く (Open iSeries Navigator service tools window) 」を選択します。

タスク	処理内容	追加情報の入手先
6.____	ディスク・プールを削除する。この手順では、削除されたディスク・プールに割り当てられたすべてのディスクを未構成状況に切り替えます。	ディスク装置構成の管理
7.____	現在未構成のディスク装置を別のディスク・プールに追加したい場合は、チェックリスト 2 および 3 を参照する。	チェックリスト 2 または チェックリスト 3
8.____	ディスク装置構成が正確であることを検証する。	グラフィカル・ビューの使用
9.____	回復時に備えて、ディスク構成を印刷する。	「バックアップおよび回復の手引き」  の『ディスク構成の表示方法 (How to display your disk configuration)』
10.____	サーバーを再始動する。	


チェックリスト 8: 装置パリティ保護なしのディスク装置を除去する


このチェックリストは、装置パリティ保護が備わっていない 1 つ以上のディスク装置をシステムから除去する場合のタスク順序を示しています。システムからディスク装置を永久的に除去するには、これらのタスクを使用してください。障害が起こったディスク装置を修理するかまたは取り替える場合は、これらのタスクを使用しないでください。このチェックリスト内のタスクを実行するには、サーバーを専用保守ツール (DST) モードで再始動する必要があります。

重要: このチェックリスト内のタスクを実行するときに、システムでは大量のデータが移動します。エラー状態から回復しなければならない場合に備えて、必ず完全にシステムを保管しておいてください。

開始する前に、このチェックリストのコピーを作成してください。構成タスクを実行したら、該当するタスクにチェック印を付けます。このチェックリストは、大切な処理記録になります。問題が発生した場合の診断に役立ちます。

チェックリスト内のほとんどのタスクには、他のトピックへのリンクが組み込まれています。特定のタスクの実行方法についてさらに情報が必要な場合は、以下のトピックを参照してください。

タスク	処理内容	追加情報の入手先
1.____	現在のディスク構成を表示する。	グラフィカル・ビューの使用
2.____	ディスクの除去にかかわるディスク・プールのスペース所要量を計算する。	ディスク・プール・スペース所要量の計算
3.____	「保管」メニューのオプション 21 を使用してシステム全体を保管する。	GO SAVE コマンドでサーバーを保管する
4.____	サーバーを再始動し、専用保守ツール (DST) を使用するためのオプションを選択する。	「バックアップおよび回復の手引き」  の『専用保守ツール (DST) の始動方法 (How to start dedicated service tools (DST))』。iSeries ナビゲーターのタスクパッドから、「 iSeries ナビゲーター・サービス・ツール・ウィンドウを開く (Open iSeries Navigator service tools window) 」を選択します。
5.____	システムから除去する予定のディスク装置を除去する。	ディスク装置構成の管理
6.____	ディスク装置構成が正確であることを検証する。	グラフィカル・ビューの使用

タスク	処理内容	追加情報の入手先
7.____	回復時に備えて、ディスク構成を印刷する。	「バックアップおよび回復の手引き」  の『ディスク構成の表示方法 (How to display your disk configuration)』
8.____	サーバーを再始動する。	


チェックリスト 9: ミラー保護なしのディスク・プールから装置パリティ保護付きのディスク装置を除去する


このチェックリストは、組み込み (標準装備の) 装置パリティ保護機能がある入出力アダプターから 1 つ以上のディスク装置をシステムから除去する場合のタスク順序を示しています。これらのタスクは、ディスク装置が入っているディスク・プールにミラー保護がない場合および IOA に対して装置パリティ保護が開始されている場合に適用されます。システムからディスク装置を永久的に除去する場合は、これらのタスクを使用してください。障害が起こったハード・ディスクを修理するかまたは取り替える場合は、これらのタスクを使用しないでください。このチェックリスト内のタスクを実行するには、サーバーを専用保守ツール (DST) モードで再始動する必要があります。

重要: このチェックリスト内のタスクを実行するときに、システムでは大量のデータが移動します。エラー状態から回復しなければならない場合に備えて、必ず完全にシステムを保管しておいてください。

開始する前に、このチェックリストのコピーを作成してください。ユーザーまたはサービス技術員が構成タスクを実行したら、該当するタスクにチェック印を付けます。このチェックリストは、大切な処理記録になります。問題が発生した場合の診断に役立ちます。

チェックリスト内のほとんどのタスクには、他のトピックへのリンクが組み込まれています。特定のタスクの実行方法についてさらに情報が必要な場合は、以下のトピックを参照してください。

タスク	処理内容	追加情報の入手先
1.____	現在のディスク構成を表示する。	グラフィカル・ビューの使用
2.____	ディスクの除去にかかわるディスク・プールのスペース所要量を計算する。	ディスク・プール・スペース所要量の計算
3.____	「保管」メニューのオプション 21 を使用してシステム全体を保管する。	GO SAVE コマンドでサーバーを保管する
4.____	サーバーを再始動し、専用保守ツール (DST) を使用するためのオプションを選択する。	「バックアップおよび回復の手引き」  の『専用保守ツール (DST) の始動方法 (How to start dedicated service tools (DST))』。iSeries ナビゲーターのタスクパッドから、「iSeries ナビゲーター・サービス・ツール・ウィンドウを開く (Open iSeries Navigator service tools window)」を選択します。
5.____	システムから除去する予定のディスク装置を除去する。	ディスク装置構成の管理
6.____	ディスク装置を装置パリティ保護から除外する。ディスク装置を正常に除外できた場合は、タスク 8 に進む。除外できなかった場合は、タスク 7 に進んでください。	装置パリティ保護に関する処理
7.____	IOP 内のすべてのディスク装置に対する装置パリティ保護を停止する。	装置パリティ保護に関する処理

タスク	処理内容	追加情報の入手先
8.____	ディスク装置を物理的に除去する。タスク 7 で装置パリティ保護を停止した場合は、タスク 9 に進む。装置パリティ保護を停止しなかった場合は、タスク 10 に進んでください。	ディスク装置構成の保守
9.____	装置パリティ保護を再び開始する。	装置パリティ保護に関する処理
10.____	ディスク装置構成が正確であることを検証する。	グラフィカル・ビューの使用
11.____	回復時に備えて、ディスク構成を印刷する。	「バックアップおよび回復の手引き」  の『ディスク構成の表示方法 (How to display your disk configuration)』
12.____	サーバーを再始動する。	


チェックリスト 10: ミラー保護付きのディスク・プールから装置パリティ保護付きのディスク装置を除去する


このチェックリストは、装置パリティ保護機能がある入出力アダプターから 1 つ以上のディスク装置をシステムから除去する場合のタスク順序を示しています。これらのタスクは、ディスク装置が含まれているディスク・プールにミラー保護機能がある場合およびディスク装置に装置パリティ保護機能がある場合に適用されます。システムからディスク装置を永久的に除去する場合は、これらのタスクを使用してください。障害が起こったディスク装置を修理するかまたは取り替える場合は、これらのタスクを使用しないでください。このチェックリスト内のタスクを実行するには、サーバーを専用保守ツール (DST) モードで再始動する必要があります。

重要: このチェックリスト内のタスクを実行するときに、システムでは大量のデータが移動します。エラー状態から回復しなければならない場合に備えて、必ず完全にシステムを保管しておいてください。

開始する前に、このチェックリストのコピーを作成してください。構成タスクを実行したら、該当するタスクにチェック印を付けます。このチェックリストは、大切な処理記録になります。問題が発生した場合の診断に役立ちます。

チェックリスト内のほとんどのタスクには、他のトピックへのリンクが組み込まれています。特定のタスクの実行方法についてさらに情報が必要な場合は、以下のトピックを参照してください。

タスク	処理内容	追加情報の入手先
1.____	現在のディスク構成を表示する。	グラフィカル・ビューの使用
2.____	ディスクの除去にかかわるディスク・プールのスペース所要量を計算する。	ディスク・プール・スペース所要量の計算
3.____	「保管」メニューのオプション 21 を使用してシステム全体を保管する。	GO SAVE コマンドでサーバーを保管する
4.____	サーバーを再始動し、専用保守ツール (DST) を使用するためのオプションを選択する。	「バックアップおよび回復の手引き」  の『専用保守ツール (DST) の始動方法 (How to start dedicated service tools (DST))』。iSeries ナビゲーターのタスクパッドから、「iSeries ナビゲーター・サービス・ツール・ウィンドウを開く (Open iSeries Navigator service tools window)」を選択します。
5.____	システムから除去する予定のディスク装置を除去する。	ディスク装置構成の管理

タスク	処理内容	追加情報の入手先
6.____	ディスク装置を装置パリティ保護から除外する。ディスク装置を正常に除外できた場合は、タスク 9 に進む。除外できなかった場合は、タスク 7 に進んでください。	装置パリティ保護に関する処理
7.____	ディスク装置が除去されるディスク・プールのミラー保護を停止する。ミラー保護を停止すると、ミラー保護されたそれぞれの対の中の 1 つのディスク装置が未構成状態になります。ディスク・プールに、IOP に接続されており装置パリティ保護がある他のディスク装置が含まれている場合のみ、ミラー保護を停止する必要があります。	ミラーリングに関する処理
8.____	IOP 内のすべてのディスク装置に対する装置パリティ保護を停止する。	装置パリティ保護に関する処理
9.____	ディスク装置を物理的に除去する。これは通常、サービス技術員が行います。タスク 8 で装置パリティ保護を停止した場合は、タスク 10 に進む。装置パリティ保護を停止しなかった場合は、タスク 14 に進んでください。	
10.____	装置パリティ保護を再び開始する。	装置パリティ保護に関する処理
11.____	未構成ディスク装置を正しいディスク・プールに追加する。タスク 7 でミラー保護を停止したときに、これらのディスク装置は未構成状態になりました。	ディスク・プールへのディスク装置の追加
12.____	ディスク装置を追加したときに、新規ディスク・プールをシステムに作成した場合、システムはそのディスク・プールの記憶域しきい値を 90 % に設定する。ディスク・プールの記憶域しきい値に異なる値を設定したい場合は、変更できます。	ディスク・プールのしきい値の設定
13.____	タスク 7 でミラー保護が停止されたディスク・プールのミラー保護を開始する。	ミラーリングに関する処理
14.____	ディスク装置構成が正確であることを検証する。	グラフィカル・ビューの使用
15.____	回復時に備えて、ディスク構成を印刷する。	「バックアップおよび回復の手引き」  の『ディスク構成の表示方法 (How to display your disk configuration)』

ディスク装置またはディスク・プールの追加

ディスク装置の追加ウィザードおよび新規ディスク・プール・ウィザードでは、時間のかかるいくつかの構成機能が 1 つの効率的なプロセスに組み込まれているので、これらのウィザードを利用することで時間を節約できます。また、これらのウィザードがご使用のシステムの能力を把握し、有効な選択項目のみを候補として表示するので、これらのウィザードを利用することで、ディスク装置構成から当て推量に頼る部分を排除することができます。たとえば、これらのウィザードでは、サーバーにディスクの圧縮能力がなければ、圧縮を開始するオプションはリストされません。

ディスク装置の追加ウィザードと新規ディスク・プール・ウィザードの両方で、基本ディスク・プールまたは独立ディスク・プールの作成、または既存のディスク・プールを使用した新規または未構成のディスク装置の追加ができます。ディスク装置を保護された ディスク・プールに追加することを選択すると、それら

のディスク装置を装置パリティ保護に組み込むか、もしくは同じ容量をもつディスク装置を追加してミラー保護された対の保護を開始するように指示されます。また、システム構成で該当のアクションが許可されている場合には、ウィザードで、ディスク・プール全体でデータのバランスを取るか、またはディスク圧縮を開始するオプションも提示されます。どちらのオプションを選択するかはユーザーが決定します。それにより、操作はシステムに合わせて調整されます。

注: サーバーのディスク構成を変更する前に、『ディスク管理の計画』を読んでおいてください。

ディスク装置の追加ウィザードおよび新規ディスク・プール・ウィザードを使用するには、次のステップに従ってください。

1. iSeries ナビゲーターで、「**ディスク装置**」を展開する。
2. ディスク装置を追加するには、「**すべてのディスク装置**」を右マウス・ボタン・クリックして、「**ディスク装置の追加**」を選択する。
3. 新規ディスク・プールを作成するには、「**ディスク・プール**」を右マウス・ボタン・クリックして、「**新規ディスク・プール**」を選択する。
4. ウィザードの指示に従って、作業を完了する。

ディスク装置構成の管理

iSeries ナビゲーターを使用して、柔軟にディスク装置を他のディスク・プールに移動させたり、既存のディスク・プール内の故障ディスク装置を取り替えることが可能です。ディスク・プールを削除したり、ディスク・プールからデータを消去することもできます。また、ディスク装置の名前変更、フォーマット、およびスキャンも可能です。

注: サーバーのディスク構成を変更する前に、『ディスク管理の計画』を読んでおいてください。計画は、使用する手順チェックリストの決定時およびディスク・プール・スペース所要量の計算時に必要です。

ディスク装置の移動と除去

記憶域の必要量が変わった場合は、ディスク装置をあるディスク・プールから別のディスク・プールに移すこともできます。ディスク装置を移す場合、サーバーが、まず最初にそのディスク装置内のすべてのデータを元のディスク・プール内の他のディスク装置に移します。独立ディスク・プールとの間でディスク装置を移動させることはできません。システム・ディスク・プールおよび基本ディスク・プール内のディスク装置については、移す前にシステムを専用保守ツール (DST) モードで再始動する必要があります。

ディスク装置を除去する場合、サーバーが、そのディスク装置内のデータをディスク・プール内の他のディスク装置に再分散させます。使用不可の独立ディスク・プールからディスク装置を除去したい場合は、システムが完全に再始動した後で行うことができます。その他のすべてのディスク・プールについては、除去する前にシステムを DST モードで再始動する必要があります。

移動プロセスまたは除去プロセスが完了するまでの時間はディスク装置の容量とパフォーマンスに応じて異なり、数分で済む場合から 1 時間以上かかる場合までさまざま、システム・パフォーマンスに影響する可能性があります。

ディスク装置をディスク・プールから移動または除去するには、次のステップに従ってください。

1. iSeries ナビゲーターで、「**ディスク装置**」を展開する。
2. 移動させるディスク装置を右マウス・ボタン・クリックし、「**移動**」または「**除去**」を選択します。
3. その後に表示されるダイアログの指示に従います。

ディスク装置の交換

障害が発生したディスク装置を交換したり、障害を防ぐためにディスク装置を切り替える場合、**ディスク装置交換**ウィザードを使用すると作業が簡単です。交換または切り替え元のディスク装置は、ミラー保護または装置パリティ保護付きで稼働していなければなりません。ミラー保護されたディスク装置を交換するには、まず先にミラーリングを中断する必要があります。装置パリティ保護付きで稼働しているディスク装置は、障害が発生した場合にのみ切り替えることができます。ただし、障害が発生していても、装置パリティ保護付きで稼働しているディスク装置を未構成のディスクと交換することはできません。

故障したディスク装置を交換するか、または中断状態のミラー保護された装置を切り替えるには、次のステップに従ってください。

1. iSeries ナビゲーターで、「**ディスク装置**」を展開する。
2. 「**すべてのディスク装置**」を選択する。
3. 交換するディスク装置を右マウス・ボタン・クリックし、「**ディスク装置の交換**」を選択する。
4. ウィザードの指示に従って、故障したディスク装置を交換する。

ディスク・プールの削除またはディスク・プールからのデータの消去

ディスク・プールのデータが必要なければ、そのディスク・プールのデータを消去するか、またはディスク・プールを削除することができます。両方のアクションとも、実行するとそのディスク・プール内のディスク装置のすべてのデータは破棄されます。ディスク・プールの消去を選択した場合、ディスク装置は新しいデータ記憶域として使用可能です。ディスク・プールを削除した場合は、すべてのディスク装置が除去され、そのディスク・プールにはアクセスできなくなります。使用不可の独立ディスク・プールを削除または消去したい場合は、システムが完全に再始動した後で行うことができます。その他のすべてのディスク・プールについては、それらを消去または削除する前にシステムを DST モードで再始動する必要があります。

▶ クラスタ環境に組み込まれている独立ディスク・プールを削除する場合は、削除の前に、「**クラスター・リソース・グループ装置エントリーの削除 (Remove Cluster Resource Group Device Entry)**」(RMVCRGDEVE) コマンドを使用して、必ずそのディスク・プールをクラスター・リソース・グループ (CRG) から除去しておくことをお勧めします。一部の環境では、CRG を先に終了しておくことが必要です。たとえば、独立ディスク・プール・グループのサブセットを除去しようとしている場合、または CRG 内の最後の独立ディスク・プールを除去しようとしている場合は、最初に「**クラスター・リソース・グループの終了 (End Cluster Resource Group)**」(ENDCRG) コマンドを実行します。独立ディスク・プールを先に削除する必要がある場合は、後で必ず CRG からその独立ディスク・プールを除去してください。◀

ディスク・プールを削除または消去するには、次のステップに従ってください。

1. iSeries ナビゲーターで、「**ディスク装置**」を展開する。
2. 「**ディスク・プール**」を選択し、消去したいディスク・プールを選択する。
3. 選択したディスク・プールを右マウス・ボタン・クリックし、「**消去**」または「**削除**」を選択する。
4. 表示されるダイアログの指示に従う。

ディスク装置の名前変更

iSeries ナビゲーターでは、デフォルトのディスク装置名をユーザーにとって分かりやすい名前に変更するオプションを利用できます。たとえば、Dd001 を LoadSource という名前に変更したりすることができます。スペースが含まれた名前を指定することはできません。

ディスク装置を名前変更するには、次のステップに従ってください。

1. iSeries ナビゲーターで、「**ディスク装置**」を展開する。

2. 名前変更するディスク装置を選択する。
3. ディスク装置を右マウス・ボタン・クリックし、「名前変更」を選択する。
4. その後に表示されるダイアログの指示に従う。

ディスク装置のフォーマット

未構成のディスク装置からすべてのデータを消去し、セクターを書き込むと、そのディスク装置は iSeries サーバーで使用可能になります。ディスク装置のフォーマットが完了するまでの時間はディスク装置の容量とパフォーマンスに応じて異なり、数分で済む場合から 1 時間以上かかる場合までさまざま、システム・パフォーマンスに影響する可能性があります。

ディスク装置をフォーマットするには、次のステップに従ってください。

1. iSeries ナビゲーターで、「ディスク装置」を展開する。
2. フォーマットするディスク装置を右マウス・ボタン・クリックし、「フォーマット」を選択する。
3. その後に表示されるダイアログの指示に従う。

ディスク装置のスキャン

単純にディスク装置をスキャンしてディスク装置の表面を検査し、エラーが発生しているセクターを訂正することができます。ディスク装置のスキャンが完了するまでの時間はディスク装置の容量とパフォーマンスに応じて異なり、数分で済む場合から 1 時間以上かかる場合までさまざま、システム・パフォーマンスに影響する可能性があります。

ディスク装置をスキャンするには、次のステップに従ってください。

1. iSeries ナビゲーターで、「ディスク装置」を展開する。
2. スキャンするディスク装置を右マウス・ボタン・クリックし、「スキャン」を選択する。
3. その後に表示されるダイアログの指示に従う。

ディスク装置のデータの保護

最適なデータ保護を行なうには、iSeries ナビゲーターを使用して、装置パリティ保護またはミラー保護のいずれかでシステム上のすべてのディスク装置を保護します。このデータ保護により、ディスク障害が起こった場合でも情報が消失するのを防ぐことができます。多くの場合、システムを稼働したままでディスク装置を修理または交換することができます。

- 装置パリティ保護に関する処理
- ミラー保護に関する処理

装置パリティ保護およびミラー保護の概念の詳細については、『ディスク保護』を参照してください。

装置パリティ保護に関する処理

装置パリティ保護は、パリティ・ディスクをパリティ・セット内の複数のディスク装置に分散させるという方法でデータを保護するデータ冗長技法を使用します。装置パリティ保護があるディスク装置で障害が発生した場合、そのデータは再構成されます。

パリティ・セットの最適化

▶ V5R2 アダプターおよび OS/400 V5R2 を使用している場合は、パリティ・セットを最適化する方法を選択できます。パリティ・セットの最適化を選択すると、入出力アダプターは選択した最適化値に従って

パリティ・セットのディスク装置を選択します。ユーザー構成によっては、異なるパリティ・セット最適化で同じパリティ・セットが生成されることもあります。パリティ・セット最適化には、次のようにいくつかのオプションがあります。

容量

容量に対して最適化されたパリティ・セットには、保管可能な最大のデータを保管します。入出力アダプターは、パリティ・セットをできるだけ少なく生成して、各パリティ・セットにはできるだけ多くのディスク装置が入るようにします。たとえば、入出力アダプターに 15 のディスク装置があり、容量に対して最適化した場合には、1 つのパリティ・セットに 15 のディスク装置が入るという結果になります。

バランス

バランス型パリティ・セットは、能力を調整して、大量のデータを格納すると同時にデータへの高速アクセスを提供します。たとえば、入出力アダプターに 15 のディスク装置があり、バランス型のパリティ最適化を選択すると、2 つのパリティ・セットの一方に 9 つのディスク装置が入り、もう一方には 6 つのディスク装置が入るという結果になります。

パフォーマンス

パフォーマンスのために最適化されたパリティ・セットは、最高速のデータ・アクセスを提供します。入出力アダプターは、生成するパリティ・セットの数を多くして、それぞれに入れるディスク装置を少なくします。たとえば、入出力アダプターに 15 のディスク装置があり、パフォーマンスのために最適化した場合は、3 つのパリティ・セットのそれぞれに 5 つのディスク装置が入るという結果になります。

パリティ・セットの最適化の変更

作成されるすべての新規パリティ・セットのパリティ・セット最適化を変更するには、次のステップに従ってください。この変更は、次に再び変更するまでは有効なままです。パリティの開始が必要な場合は、パリティ開始プロセスの一部としてパリティ・セット最適化を変更することもできます。

1. 「**ディスク装置**」を展開する。
2. 「**パリティ・セット**」を右マウス・ボタン・クリックして、「**最適化の変更**」を選択する。◀

装置パリティ保護の開始

装置パリティ保護を開始する最も良い時期は、新規または未構成のディスク装置を追加するときです。ディスク装置の追加ウィザードでは、パリティ・セットへのディスク装置の組み込み処理、および装置パリティ保護の開始処理を行うことができます。後で装置パリティ保護を開始することも可能です。

V5R2 IOA で装置パリティ保護を開始する場合の基本規則は次のとおりです。

- 使用できるパリティ・セットの最大数: 8 (アダプターによっては、サポートされるパリティ・セットの数がもっと少ない場合もあります)。
- 1 パリティ・セット当たりの最大装置数: 18
- 1 パリティ・セット当たりの最小装置数: 3
- 1 つのパリティ・セット内のすべての装置は、同じ容量でなくてはなりません。

装置パリティ保護を開始するには (ディスク装置の追加ウィザードで実行しなかった場合)、次のステップに従ってください。

1. iSeries ナビゲーターで、「**ディスク装置**」を展開する。
2. 装置パリティ保護を開始するディスク装置を選択する。

3. 選択したディスク装置を右マウス・ボタン・クリックし、「**パリティの開始**」を選択する。
4. その後に表示されるダイアログで、「**パリティの開始**」をクリックして、表示されたディスク装置に対して装置パリティ保護を開始する。

装置パリティ保護の停止

表示されたディスク装置の装置パリティ保護を停止できます。リストには、パリティ・セット内のすべてのディスク装置が表示されます。装置パリティ保護を停止するための準備にかかる時、システムでは、装置パリティ保護を停止した結果としてシステムがサポートされない構成状態になってしまわないことを確認するために、妥当性検査が実行されます。装置パリティ保護の停止処理が完了するまでの時間はディスク装置の容量とパフォーマンスに応じて異なり、数分で済む場合から 1 時間以上かかる場合までさまざまで、システム・パフォーマンスに影響する可能性があります。

ミラー保護されたディスク・プール内のディスク装置に対する装置パリティ保護を停止することはできません。装置パリティ保護を停止するには、最初にミラー保護を停止する必要があります。

パリティ・セット内のディスク装置に対する装置パリティ保護を停止するには、次のステップに従ってください。

1. iSeries ナビゲーターで、「**ディスク装置**」を展開する。
2. 装置パリティ保護を停止するディスク装置を選択する。
3. 選択したディスク装置を右マウス・ボタン・クリックし、「**パリティの停止**」を選択する。
4. その後に表示されるダイアログで、「**パリティの停止**」をクリックして装置パリティ保護を停止する。

パリティ・セットのディスク装置の組み込みまたは除外

パリティ・セットに組み込むディスク装置を選択できます。装置パリティ保護がある既存の入出力プロセッサに新規のディスク装置を接続する場合、そのディスク装置を同じ容量の他のディスク装置と共に装置パリティ・セットに組み込むことができます。入出力プロセッサによって、同じ容量のすべてのディスク装置を保護するために必要なパリティ・セットの最小数が決まります。

パリティ・セットから除外するディスク装置を選択することもできます。パリティ・セットからディスク装置を除外した場合、このディスク装置上のデータは残りますが、装置パリティ保護は解除されます。ディスク・プールが保護されている場合は、そのディスク・プールに属するディスク装置をパリティ・セットから除外することはできません。システムでは、保護されていないディスク装置を保護されたディスク・プールに入れることはできません。

使用不可の独立ディスク・プールの場合は、ディスク装置の組み込みまたは除外は、システムを完全に再始動した後で行うことができます。その他のすべてのディスク・プールの場合は、パリティ・セットにそれらを組み込むかまたは除外する前に、システムを専用保守ツール (DST) モードで再始動する必要があります。

ディスク装置をパリティ・セットへ組み込むためには、次のステップにしたがってください。

1. 「**ディスク装置**」を展開する。
2. 組み込むディスク装置を選択する。
3. 選択したディスク装置を右マウス・ボタン・クリックし、「**パリティ・セットに組み込む**」を選択する。
4. その後に表示されるダイアログで、「**組み込み**」をクリックして選択したディスク装置をパリティ・セットに組み込む。

ディスク装置をパリティ・セットから除外するには、次のステップに従ってください。

1. 「**ディスク装置**」を展開する。
2. 除外するディスク装置を選択する。
3. 選択したディスク装置を右マウス・ボタン・クリックし、「**パリティ・セットから除外**」を選択する。
4. その後に表示されるダイアログで、「**除外**」をクリックしてディスク装置をパリティ・セットから除外する。

装置パリティ保護の概念の詳細については、『**装置パリティ保護**』を参照してください。

ミラー保護に関する処理

マルチバス・サーバーまたは大規模な単一バスをもつサーバーがある場合に、ミラー保護は非常に役立ちます。一般に、ディスク装置の数が多ければ多いほど、障害発生率は高くなり、回復時間も長くなります。ミラー保護は、データの第 2 コピーをミラー保護されたディスク装置に保持するという方法で、サーバーの障害を防ぎます。1 つのディスク装置に障害が起これば、サーバーは、ミラー保護されたディスク装置に切り替えて処理を継続します。

ミラー保護の開始

ディスク装置の追加ウィザードおよび新規ディスク・プール・ウィザードを使用して、保護されたディスク・プールに同一容量のディスク装置の対を追加できます。ディスクを正しく構成した後、ミラーリングを開始することができます。使用不可の独立ディスク・プールのミラーリングを開始したい場合は、システムが完全に再始動した後で行ってください。その他のすべてのディスク・プールについては、ミラー保護を開始する前に、システムを専用保守ツール (DST) モードで再始動する必要があります。

ミラーリングを開始するには、次のステップに従ってください。

1. iSeries ナビゲーターで、「**ディスク装置**」を展開する。
2. 「**ディスク・プール**」をクリックして展開する。
3. ミラーリングするディスク・プールを右マウス・ボタン・クリックし、「**ミラー保護の開始**」を選択する。

ミラー保護の停止

ミラー保護を停止すると、ミラー保護されたそれぞれの対の中の 1 つのディスク装置が非構成状態になります。ディスク・プールのミラー保護を停止するには、そのディスク・プール内のミラー保護された各対の中に少なくとも 1 つの装置が存在し、アクティブでなければなりません。各対の中のミラー保護された装置のどちらかを非構成状態にするかを制御するには、非構成にしたい記憶装置を中断することができます。中断状態ではない装置については、選択は自動的に行われます。

使用不可の独立ディスク・プールのミラーリングを停止したい場合は、システムが完全に再始動した後で行ってください。その他のすべてのディスク・プールについては、ミラー保護を停止する前に、システムを専用保守ツール (DST) モードで再始動する必要があります。

ミラーリングを停止するには、次のステップに従ってください。

1. iSeries ナビゲーターで、「**ディスク装置**」を展開する。
2. 「**ディスク・プール**」をクリックして展開する。
3. ミラー保護を停止したいディスク・プールを選択する。
4. 選択したディスク・プールを右マウス・ボタン・クリックし、「**ミラー保護の停止**」を選択する。

5. その後に表示される確認ダイアログで、「ミラー保護の停止」をクリックする。

リモート IPL 装置のミラー保護を使用可能にする

iSeries ナビゲーターを使用して、リモート IPL 装置のミラー保護を使用可能にすることもできます。このアクションにより、ロード・ソースのミラー保護された対の 2 つのディスク装置を異なる入出力プロセッサまたはシステム・バスに置くことが可能になります。リモート IPL 装置のミラーリングにより、2 つのサイト間でディスク装置を分割し、1 つのサイトをもう 1 つのサイトにミラーリングするという方法で、サイトの災害に対してディスク装置を保護することが可能になります。

リモート IPL 装置のミラーリングを開始するには、次のステップに従ってください。

1. iSeries ナビゲーターで、「ディスク装置」を展開する。
2. 「ディスク・プール」をクリックして展開する。
3. 「ディスク・プール 1」をクリックして展開する。
4. ロード・ソース・ディスク装置を右マウス・ボタン・クリックし、「リモート IPL 装置のミラー保護を使用可能にする」を選択する。

注: リモート IPL 装置のミラーリングを使用可能にしても、それによってそのディスク装置に対するミラー保護を開始することはできません。リモート IPL 装置のミラー保護は、ロード・ソース・ディスク装置のみに影響を与えます。

ミラー保護の中断

ミラー保護された対の中のディスク装置に障害が起こった場合は、そのディスク装置を修理または交換するためにミラーリングを中断する必要があります。使用不可の独立ディスク・プールのミラーリングを中断したい場合は、システムが完全に再始動した後で行ってください。その他のすべてのディスク・プールについては、ミラーリングを中断する前に、システムを専用保守ツール (DST) モードで再始動する必要があります。

ミラーリングを中断するには、次のステップに従ってください。

1. iSeries ナビゲーターで、「ディスク装置」を展開する。
2. 「すべてのディスク装置」をダブルクリックする。
3. ミラー保護を停止するディスク装置を選択する。
4. 選択したディスク装置を右マウス・ボタン・クリックし、「ミラーリングの中断」を選択する。

ミラーリングの概念については、『ミラー保護』を参照してください。

ディスク装置のパフォーマンスの最適化

ここでは、データをさらに効率的に管理するのに役立ついくつかのツールの概要と手順について説明します。これらのツールは iSeries ナビゲーターを介して使用できます。「バックアップおよび回復の手引き」

 およびディスク装置に関するオンライン・ヘルプに詳しい情報が含まれています。

ディスク・プールしきい値の設定

ディスク・プールのしきい値を設定することで、ディスク・プールがオーバーフローして回復の問題が起こる事態を避けることができます。ディスク・プールに格納されているデータが指定のしきい値を超えると、サーバーから警告メッセージが戻されるので、ユーザーには、記憶域スペースを追加するかまたは不要なオ

プロジェクトを削除する時間の余裕ができます。ディスク・プールのデフォルトのしきい値は、90% に設定されています。この値は、ポインターをドラッグしてしきい値の目盛りを上下させて変更することができます。

ディスク・プールのしきい値を変更するには、次のステップに従ってください。

1. 「**ディスク・プール**」をクリックして展開する。
2. しきい値を変更したいディスク・プールを右マウス・ボタン・クリックし、「**プロパティ**」を選択する。
3. 「**しきい値**」タブで、ディスク・プールのしきい値を上げるか、または下げる。


自動オーバーフロー回復を使用可能にする

基本ディスク・プールがいっぱいになり、基本ディスク・プール内のデータがシステム・ディスク・プールにオーバーフローするようになると、その基本ディスク・プールはオーバーフロー状態になっていると言えます。自動オーバーフロー回復を使用可能にすると、システムを通常の方法で再始動することで、システム・ディスク・プールにオーバーフローしたデータを回復することができます。その前に基本ディスク・プールに十分なスペースを作成しておけば、システムは、オーバーフローしたデータをシステム・ディスク・プールから基本ディスク・プールにコピーします。自動オーバーフロー回復を使用不可にした場合は、手でサーバーを再始動して専用保守ツール (DST) モードにし、コマンド・プロンプトから DST を使用してオーバーフローしたデータを回復する必要があります。

自動オーバーフロー回復を使用可能にするには、次の簡単なステップを実行するのみです。

1. 「**ディスク・プール**」を選択し、自動オーバーフロー回復を使用可能にしたいディスク・プールを選択する。
2. 選択したディスク・プールを右マウス・ボタン・クリックし、「**オーバーフロー回復を使用可能にする**」を選択する。
3. その後に表示されるダイアログの指示に従う。

ディスク・プールのバランスを取る

ディスク・プール内のディスク装置に格納されるデータのパーセンテージが等しくなるようにすることで、サーバーのパフォーマンスを向上させることができます。キャパシティー・balancing機能により、ディスク・プール内のディスク装置間のバランスが調整されます。ディスク装置の追加ウィザードまたは新規ディスク・プール・ウィザードの使用時に、ディスク・プールのバランス調整を設定できます。使用量balancingまたは階層記憶管理 (HSM) balancingを使用してシステムをカスタマイズしたい場合は、「バックアップおよび回復の手引き」  を参照してください。

iSeries ナビゲーターを使用してディスク・プールのキャパシティーのバランスを取る方法には、次の 2 つがあります。

- ディスク装置の追加ウィザードを使用する。
- 新規ディスク・プール・ウィザードを使用する。

ディスク圧縮の開始

圧縮は、データをエンコードしてそれが占める物理的記憶域のスペースを少なくすることによって、ディスク装置の見かけの容量を増加させるものです。データの圧縮および圧縮解除には必要なオーバーヘッドが発生するため、圧縮はパフォーマンスに影響します。頻繁にはアクセスしないデータや、高速の入出力パフォーマンスを必要としないデータなどが、圧縮の対象になります。未構成のディスク装置または使用不可の独

独立ディスク・プール内のディスク装置を圧縮する場合は、システムが完全に再始動した後で行ってください。その他のすべてのディスク・プールについては、圧縮する前にサーバーを DST モードで再始動する必要があります。

圧縮を開始するには、次のステップに従ってください。

1. 「すべてのディスク装置」をクリックして展開する。
2. 圧縮するディスク装置を選択する。
3. 選択したディスク装置を右マウス・ボタン・クリックし、「圧縮の開始」を選択する。
4. その後に表示されるダイアログの指示に従って、選択したディスク装置の圧縮を開始する。

独立ディスク・プールの管理

独立ディスク・プールでは、オフに変更されている独立ディスク・プール内でタスクを実行する限り、サーバーを完全に再始動して一部のディスク管理機能を実行できるという柔軟性が得られます。また、日常のビジネス・プロセスには使用されない大量のデータをオフラインにすることを選択しておくことで、独立ディスク・プールにより、システム再始動時の処理時間を節約したり、記憶域を再利用することができます。クラスター化環境で切り替え可能な独立ディスク・プールを作成することで柔軟性を高めたり、1 つのサーバー専用の独立ディスク・プールでこれらの利点を活用することができます。iSeries ナビゲーターで独立ディスク・プールを計画、構成、および管理する方法の詳細については、『独立ディスク・プール』を参照してください。

クラスターの詳細については、『クラスター』を参照してください。


関連情報

iSeries Information Center に収めてあるトピックおよび iSeries のマニュアル (PDF フォーマット) から、ディスク・プールの管理に関連のあるものを以下にリストしてあります。PDF はどれも、表示または印刷してご利用いただけます。

iSeries Information Center のトピック

- 独立ディスク・プール (約 50 ページ)
- ディスク保護 (約 50 ページ)

マニュアル


- バックアップおよび回復の手引き  (約 700 ページ)

PDF ファイルの保管

表示用または印刷用の PDF ファイルを Netscape Navigator からワークステーションに保存するには、次のようにします。

1. ブラウザーで PDF を開く (上記のリンクをクリックする)。
2. ブラウザーのメニューから「ファイル」をクリックする。
3. 「名前を付けて保存」をクリックする。(IE の場合はフロッピーディスクのアイコン (名前を付けて保存) をクリックする)。
4. PDF を保存したいディレクトリーに進む。
5. 「保存」をクリックする。

Adobe Acrobat Reader のダウンロード

これらの PDF を表示または印刷するために Adobe Acrobat Reader が必要な場合は、Adobe の Web サイト (www.adobe.com/products/acrobat/readstep.html)  からダウンロードしてください。



Printed in Japan